

活動状況報告（4月）

学生留学コース 5期生 上野 瞭子

レンヌ政治学院の4月は、5月の期末試験前の長期休みであるため、今月は、講義がある日のスケジュールについて報告をします。

まず、レンヌ政治学院の1限目は、8時から始まります。1コマが、北海道大学の講義時間よりも長い2時間であるため、集中力を保たせることは大変です。しかし、教授の裁量で講義開始から1時間経った頃に休憩が入ることが多いです。面白いことに、教授も学生も、この休憩中は中庭でコーヒーかタバコを片手に談笑するため、教室内は誰もいません。コーヒーは、小さいカップで提供される自動販売機で購入できます。高さ10cmくらいのカップで、0,45€、日本円にして70円くらいです。また、フランスでは、18歳から喫煙が認められており、フランス人の喫煙率は高いです。わたしも、コーヒーを片手に学友と談笑して、休憩時間を過ごしていました。

さて、2限が終わると、ランチタイムになります。ランチタイムは、1時間半あり、ほとんどの学生が学食に向かいます。フランスには、日本の生協にあたる、crous というフランス全土で統一された学生支援機関があり、学食もcrousが運営しています。メニューは、前菜、メイン、デザートを自分で選ぶことができ、小さなフランスパンが付いてきます。メインは、骨付きのチキンやグラタン、ピザなど、どれも美味しく、毎回どれを注文するか悩みます。価格は、一律3,30€(日本円で500円くらい)と良心的で、さらに、奨学金生であれば、1€(日本円で150円くらい)でいただくことができます。わたしも、北海道庁から奨学金をいただいているため、奨学金生であるとみなされ、毎日1€で温かいご飯をお腹いっぱいいただくことができました。

ここで、crousについて、他のサービスについて紹介します。特にお世話になったのは、住居です。わたしは、crousが運営する学生寮に入居しました。わたしが住んでいる部屋は、家具が付いていて学生がひとりで生活するにはちょうどいい広さです。キッチンも共同ですが、そのおかげで、同じフロアに住んでいる人と料理をしながら、互いの料理を紹介するなど交流を深めることができます。また、家賃は、光熱費込みで244€で、さらに、住宅補助をいただいているため、実際に支払っているのは、129€(日本円で2万円くらい)です。レンヌの相場が、700€なのでかなり良心的だと思います。この「住宅補助」とは、フランス政府による制度で、誰でも申請することができます。住宅補助の金額は、条件によって異なり、奨学金生かそうでないかも加味され、なんと奨学金生は、非奨学金生の倍の金額をいただくことができます。

このように、奨学金生であることにより、経済的側面で大変、助けられています。したがって、フランス留学を検討していて、これを読んでいる方には、奨学金の申請に挑戦することをおすすめします。

話を戻し、講義がない時間は、主に友人と図書館で復習をします。今回は、講義がある日について紹介していますが、講義がない日も図書館で勉強していることが多いです。レンヌ政治学院では、留学生のみ対象の講義以外の講義は、基本的に課題がないため、講義に向けた勉強は復習がメインになります。レンヌ政治学院の近くにある図書館は、とても広々としていて、参考書等が豊富です。また、電子書籍も充実しています。このように、学習環境がとても整っているため、集中して勉学に励むことができます。

そして、学食で夕食を済ませた後、留学生支援サークルが主催するイベントに参加したり、留学生だけで集まって談笑したりして、夜を過ごします。

わたしは、このような快適な環境の中で、不自由なく1日を過ごすことができます。この状況に感謝しながら、今回の報告を終わろうと思います。

いよいよ、レンヌ政治学院での生活も終盤です。来月は、期末試験が始まります。最後の期末試験に向けて、一生懸命勉学に励みます。

(講義中のプレゼンテーションの様子)



(ある日の学食)

